

# 北海道における住民主体の景観形成促進に関する研究

担当部科 居住科学部 都市生活科

## 【研究の目的と方法】

本研究では、当研究所が広域での景観づくりの取り組みに協力を続けている十勝地域をモデルとして取り上げ、その実状を調査・分析した上で、その地域にあった具体的な手法を提案し、その実施及び検証を行います。

本年度は、住民主体の景観づくりに取り組むための十勝の現状と課題と、それに応じた具体的な取り組みの検討を中心に研究を進めました。

## 【研究の結果】

十勝地域での住民主体の景観づくりに関わる状況を、

### 【意識レベル】

- ・ 景観の良さの認識
- ・ 活動への参加意向

### 【活動状況レベル】

- ・ 住民活動の状況
- ・ 地域の人材の発掘・活用

### 【住民と行政との連携レベル】

・ 住民と行政との連携状況に分けて、課題や今後の取り組みを検討しました。

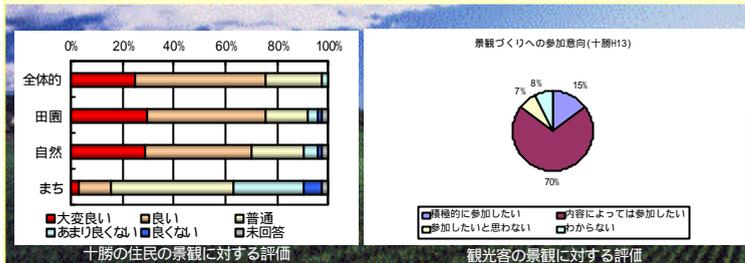
## 【今後の取り組み】

十勝地域での取り組み(情報交換や提言活動など自発的な行動を支えるしくみづくり、子ども達が景観について学習や体験ができるしくみづくり、行政機関が実施する事業における景観に対する配慮や情報交換のしくみづくり)の検証などを通して、住民主体の景観形成の推進に向け、

- ・ 地域の実情の把握
- ・ 実状に応じた住民主体の景観形成手法

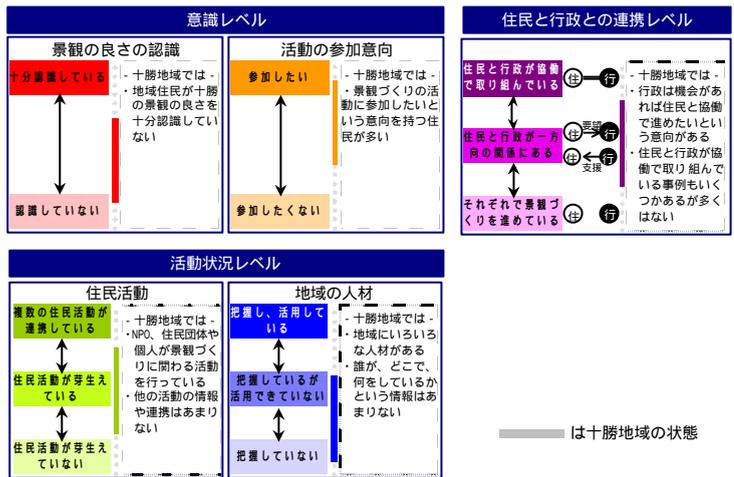
について検討していきます。

## 地域の実情把握(十勝地域の場合)



アンケートから、住民が十勝の景観の良さを十分に認識していないという状況が読みとれました。しかし、住民の景観づくりに参加したいという意向は高く、実際に景観づくりの活動を行っている個人やグループが既にあります。その活動の情報やグループ同士の連携が弱いということが窺えます。

行政は機会があれば、住民と協働で景観に関わる公共事業を進めていきたいと考えていますが、その際には進め方や事業期間などに課題があることが明らかになりました。



## 実状を踏まえた課題と今後の取り組み(十勝地域の場合)

**課題**

- ・ 景観の意識づくりを継続的に行うこと
- ・ 住民の景観づくりに関わりたいという意向を活かすこと
- ・ 住民の景観づくりの活動を何らかの形で連携、大きな力にしていくこと
- ・ 公共事業等の景観づくりにおいても、行政と住民が協働で進めることができるよう、必要なしくみを整えていくこと

**各種情報発信や地域での啓発活動**

- ・ 教育現場である学校での景観教育など行政が住民の活動のきっかけとなる取り組みを推進
- ・ 地域の景観づくりの情報を収集し、発信
- ・ 住民活動に必要な各種情報の提供や支援を行うまちづくりセンターの設置
- ・ 地域で景観づくりのリーダーを育てるプログラムを展開
- ・ 景観に関わる部局や他機関との連携
- ・ 行政担当者の意識向上
- ・ 力の蓄積

↓

**今後の十勝地域での取り組み**

- ・ 情報交換や提言活動など自発的な行動を支えるしくみづくり
- ・ 子ども達が景観について学習や体験ができるしくみづくり
- ・ 行政機関が実施する事業における景観に対する配慮や情報交換のしくみづくり